

# 次期東北圏広域地方計画の骨子(案) 説明資料

令和5年3月23日(木)

東北圏広域地方計画協議会

---

# 1. 次期東北圏広域地方計画の骨子案の構成

## 第1章 計画の目的

第1節 計画の目的 第2節 計画の対象区域と計画期間等 1.対象区域 2.東北圏の位置づけ 3.計画期間

## 第2章 東北圏を取り巻く状況と地域特性

- 第1節 東北圏が歩んできた歴史
- 第2節 東北圏の特徴と魅力
- 第3節 東北圏を取り巻く潮流
- 第4節 東北圏発展の課題

## 第3章 これから10年で東北圏が目指す姿

### 第1節 東北圏の将来像

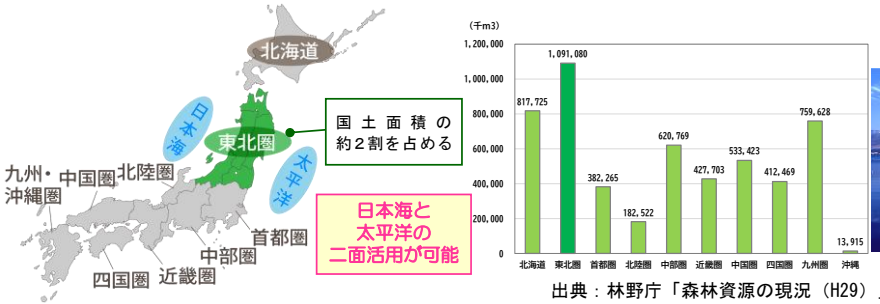
### 第2節 将来像実現のための方針及び目標

1. 震災の経験を活かし、強さとしなやかさを世界に発信する防災先進圏域の形成
  - (1) 復興・再生の強い力を未来につなげる社会の実現
2. グリーンな国土づくりに挑戦する東北圏の形成
  - (1) 美しい国土の保全と恵みある豊かな自然の継承と利活用
  - (2) 新しい暮らしを可能にし、雪との共生によるコンパクトな圏域の実現
3. エネルギー・食料の自給力と産業の競争力を通した日本全体を牽引する東北圏の形成
  - (1) 豊かな地域資源の活用と先端産業の挑戦による国際競争力の強化
  - (2) 交流・連携強化による世界とつながるネットワークの実現
4. 誰もが自己実現でき地方の先導モデルとなる東北圏の形成
  - (1) 自分らしくチャレンジできる自立的な地域運営の実現

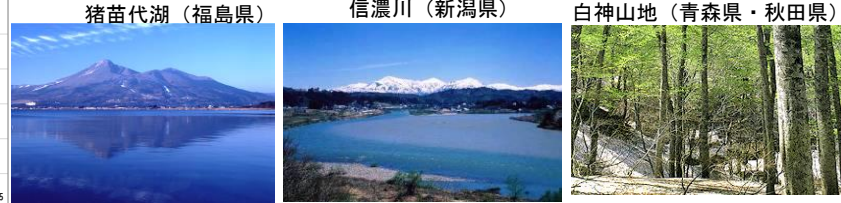
# 2. 東北圏の特徴と魅力-1

## 1. 広大な圏土と豊かな自然環境

『広大な面積と豊富な森林』



『豊かな自然と水資源』



『美しい太平洋と日本海』  
太平洋のリアス式海岸 (岩手県)

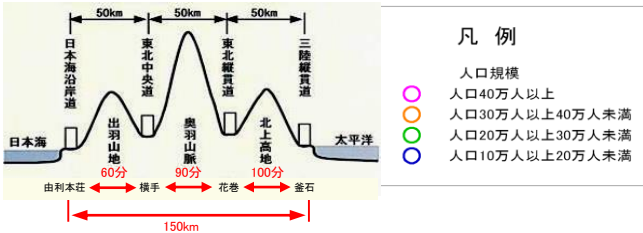


海岸線が美しい日本海 (秋田県)

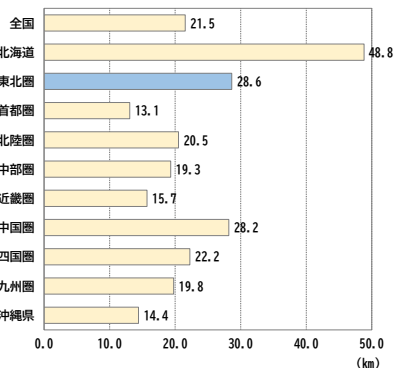


## 2. 広範囲に都市が分散する圏土構造

『起伏に富んだ山地』



『長い都市間距離』



## 3. 気象、災害等の自然の脅威

『東日本大震災後も続く大地震』



豪雪地帯・特別豪雪地帯指定地域

東北圏域の約8割が豪雪地帯に指定されており、そのうち4割は特別豪雪地帯である。



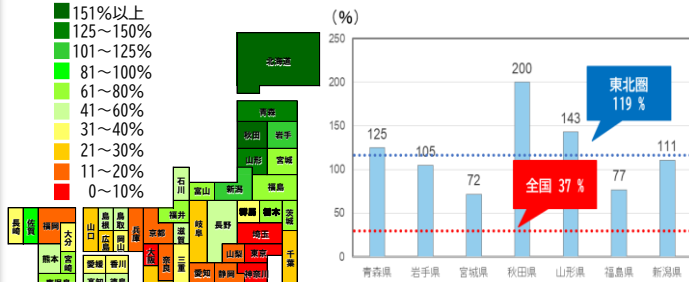
『豪雨災害の頻発・激甚化』



# 2. 東北圏の特徴と魅力-2

## 4. 地域資源のポテンシャル

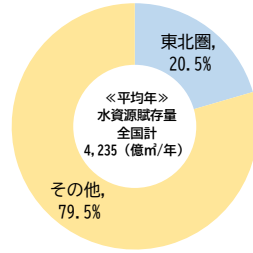
### 『東北圏の高い食料自給率(カロリーベース)』 (令和2年度(概算値))



▲東北圏の食料自給率

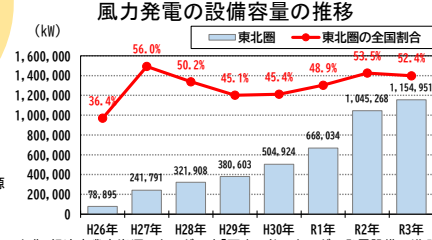
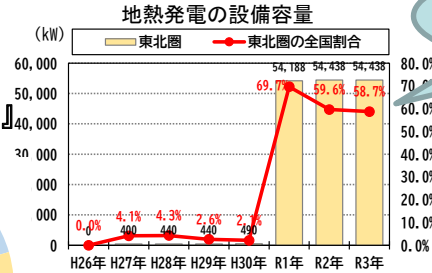
出典：農林水産省「(HP)都道府県別食料自給率について」  
※東北圏(青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県・新潟県)については、推進室事務局により算出

### 『豊富な水資源賦存量』



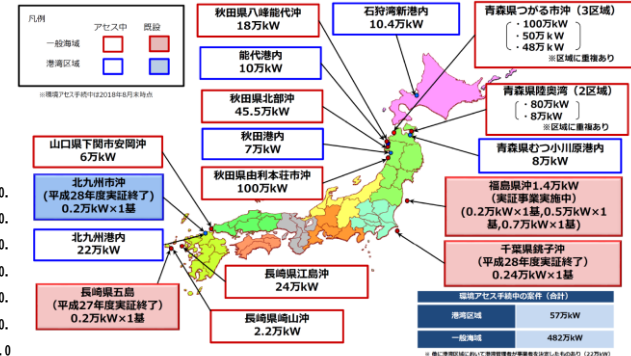
出典：国土交通省「令和3年版 日本の水資源の現況について本編(PDF版)」

### 『自然エネルギーの導入量』



出典：経済産業省資源エネルギー庁「再生可能エネルギー発電設備の導入状況(2021年12月末時点の状況)」

R1年5月に湯沢市に山葵地熱発電所が開設された影響により導入量が急増。



▲洋上風力発電の導入及び設置計画の状況  
出典：エネルギー白書2020(資源エネルギー庁)

## 5. 先端産業拠点の整備進展

### 『整備が進む先端産業拠点』



▲次世代放射光施設(ナノテラス)  
出典：東北大学



▲鶴岡サイエンスパーク  
出典：山形県



福島ロボットテストフィールド

▲ふくしま医療機器開発支援センター 出典：福島イノベーション・コースト構想

### 『先端産業の研究開発拠点の立地』



出典：「国土形成計画(広域地方計画)の推進に係る報告について(国土交通省)」を基に作成



▲国際リニアコライダー(イメージ)  
出典：ILCを核とした東北の将来ビジョン

## 6. 特徴ある伝統、文化、冬の魅力

北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録 (R3年)



三内丸山遺跡(青森県)

青森ねぶた祭り(青森県)



蔵王の樹氷(宮城県・山形県)



大森勝山遺跡(青森県)

# 2. 東北圏を取り巻く潮流-1

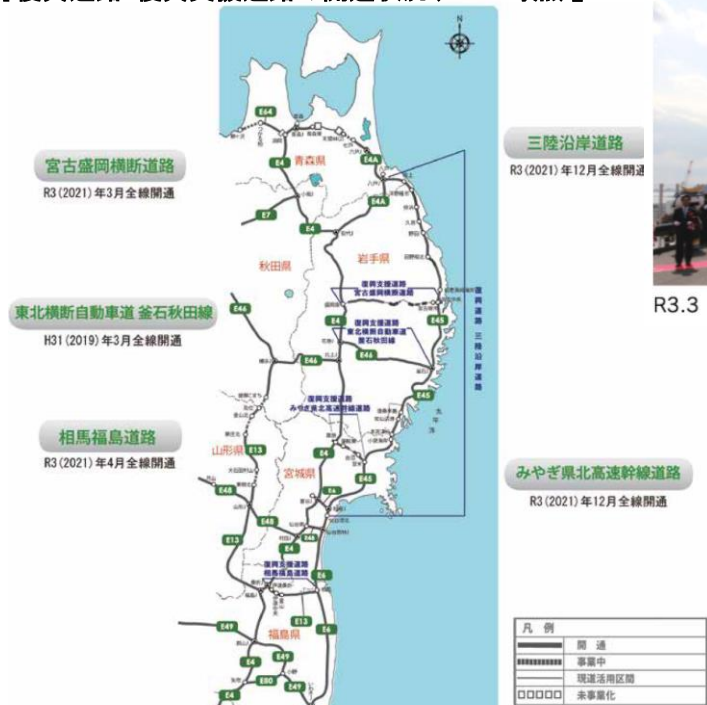
## 1. 東日本大震災からの復興と再生

### 『復興に関する取組の達成状況』

	震災前又は最大値	現状
復興道路・復興支援道路	570km(計画)	570km(100%) 【R3.12】
災害公営住宅	29,654戸 (計画戸数)	29,654戸(100%) 【R2.12】
高台移転による宅地造成	18,226戸 (計画戸数)	18,226戸(100%) 【R2.12】
避難者数	47万人(発災当初)	3.5万人【R4.4】
応急仮設住宅の入居者数	31.6万人 【H24.4最大】	0.1万人【R4.5】
日本産農林水産物・食品 に対する輸入規制実施国・ 地域数	55か国・地域 (最大)	13か国・地域 (撤廃42か国・地域) 【R4.6】

出典：復興庁「復興の現状と今後の取組 (R4.4)」

### 『復興道路・復興支援道路の開通状況 (R3.12時点)』



令和3年12月18日現在  
出典：復興庁「東日本大震災からの復興の状況と取組 (令和3年12月版)」

## ① 住まいとまちの復興



災害公営住宅整備 (宮城県南三陸町)  
(UR都市機構より提供)



R3.3 復興道路開通式 (気仙沼港IC～唐桑半島IC)  
出典：三陸エリアと復興道路パンフレット

### 『9年ぶりに全線開通したJR常磐線』



出典：国土交通省東北地方整備局東北圏広域地方計画推進室  
「東日本大震災からの復興の状況と取組 (令和3年12月版)」

## ② 原子力災害からの被災者支援と産業・生業の再生

### 『避難者数は約4万人 (R3.4)』



### 『水産業に課題』



出典：復興庁「復興の現状と今後の取組」

### 『引き続き求められるコミュニティ形成や住宅・生活再建相談、心のケアなどの支援』



出典：復興庁「復興の現状と今後の取組」

## ③ 東日本大震災の経験・教訓の継承

### 『復興祈念公園の整備』



(福島県復興記念公園イメージパース)



(高田松原津波復興記念公園)

### 『教訓を伝える施設のネットワーク化』



(石巻南浜津波復興祈念公園)



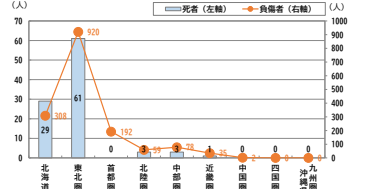
教訓が、  
いのちを  
教える。

3.11 伝承ロード

# 2. 東北圏を取り巻く潮流-2

## 2. 頻発・激甚化する自然災害

雪害による死傷者の地域分布 (R3年)



出典:消防庁「今冬の雪による被害状況等」



▲令和2年7月豪雨最上川 (山形県大石田町)

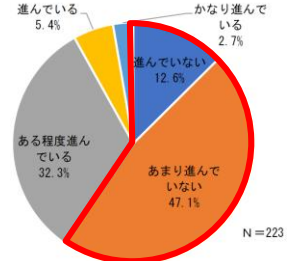


▲令和3年8月温帯低気圧による豪雨(青森県むつ市)

出典:東北地方整備局

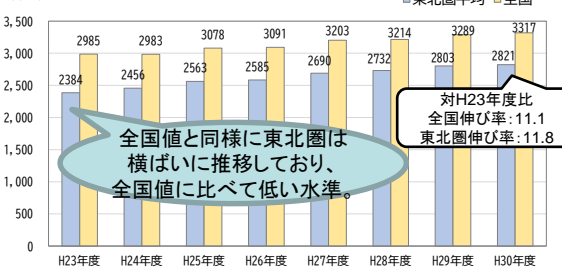
## 5. デジタルトランスフォーメーション(DX)の遅れと成長の停滞

東北圏企業のデジタル化の取り組み状況



出典:公益財団法人 東北活性化研究センター「東北圏の産業分野におけるデジタル技術活用に関する実態調査」

1人当たり県民所得

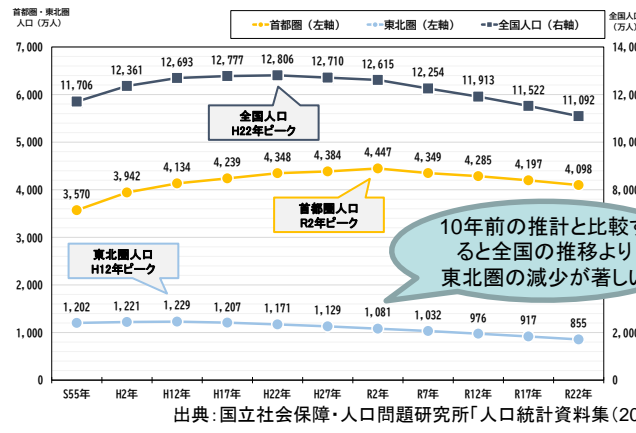


全国値と同様に東北圏は横ばいに推移しており、全国値に比べて低い水準。

対H23年度比  
全国伸び率:11.1  
東北圏伸び率:11.8

出典:内閣府「県民経済計算」

## 3. 人口減少・高齢化の深刻化

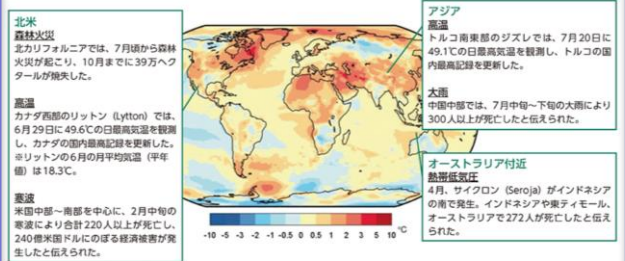


10年前の推計と比較すると全国の推移より東北圏の減少が著しい

出典:国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集(2022)」

## 6. 地球規模の環境問題

2021年の世界各地の異常気象



1981-2010年の平均気温に対する2021年1月-9月の平均気温の偏差  
出典:環境省「令和4年版環境・循環型社会・生物多様性白書」

地球規模の課題である気候変動問題の解決に向けて、世界的にカーボンニュートラルの取組推進が求められる。

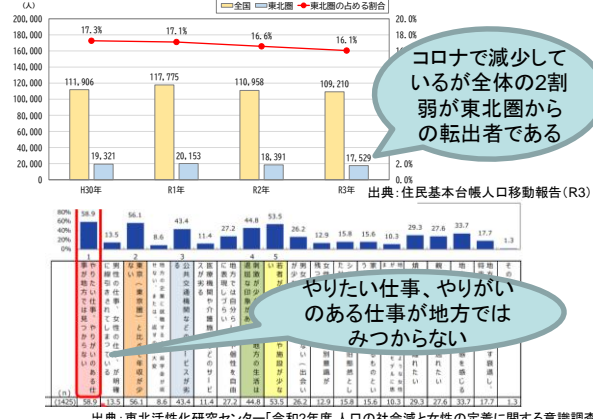
2050年までのカーボンニュートラルを表明した国



出典:経済産業省「令和2年度エネルギーに関する年次報告(エネルギー白書2021)」

## 4. 若年層・女性の転出増

20代女性の首都圏への転出



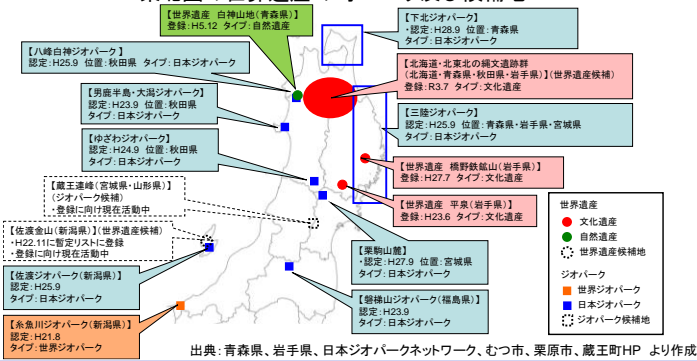
コロナで減少しているが全体の2割弱が東北圏からの転出者である

やりたい仕事、やりがいのある仕事が地方ではみつからない

出典:東北活性化研究センター「令和2年度人口の社会減と女性の定着に関する意識調査」

## 7. 地域・社会の魅力、文化への意識の高まり

東北圏の世界遺産・ジオパーク及び候補地



出典:青森県、岩手県、日本ジオパークネットワーク、むつ市、栗原市、蔵王町HPより作成

## 8. 新型コロナウイルス感染症による変化

デュアルライフ東北 ～多様な暮らし方、働き方の先遣地へ～



コロナ禍により地方移住への関心が年々高まっている。

▲地方移住への関心(東京圏)  
出典:内閣府「第4回新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査(R3)」

# 3. 東北圏発展の課題ー1

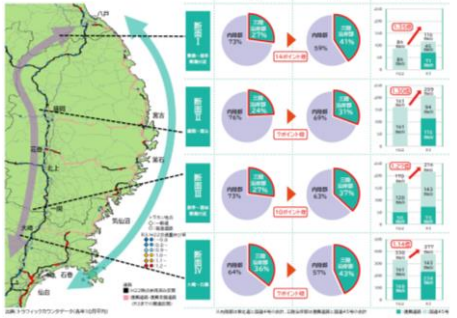
黒文字：現計画の課題内容  
赤文字：変更提案  
青文字：関連キーワード、変更の意図、方向性

## 1. 震災復興の先の自立的発展

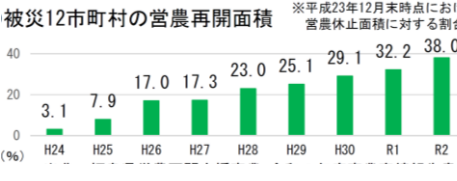
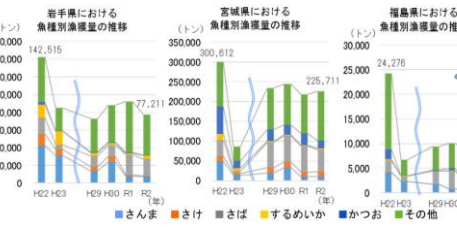
- (1) 広域的な地域間連携
- (2) 広域交通基盤の機能強化
- (3) 災害時の情報通信の確保
- (4) 災害リスクの低減
- (5) 災害廃棄物の広域処理体制の構築
- (6) 防災訓練・教育の充実強化や災害の記録と伝承
- (7) 災害に強いサプライチェーンの構築
- (8) 復興に向けた新しい地域づくり
- (9) 東京電力福島第一原子力発電所の事故による災害への対応

※戦略的目標との対応を分かりやすく表現するため  
災害対策と区別。  
震災復興はおおむね進展してきていることから、次  
の段階へ進む意味合いを表現。  
その他表現例  
震災復興の先に向けた自立的発展へ など

地震・津波被災地域`復興の「総仕上げ」の  
段階、原子力災害被災地域`復興・再生が  
「本格的に始まった」段階(復興の現状と今後の  
取組、R4,復興庁)  
産業集積  
国内外への発信  
風評払拭



▲三陸沿岸部の交通量の変化  
出典：東北地方整備局HP



出典：復興庁「復興の現状と今後の取組(R4.6)」より抜粋

東日本大震災及び  
原発事故からの再生に向けて、  
6つのプロジェクトを推進し、各種  
産業の集積を進めている。

**廃炉**

楢葉遠隔技術開発センター

**ロボット・ドローン**

福島ロボットテストフィールド

**エネルギー・環境・リサイクル**

再生可能エネルギーの導入

**農林水産業**

浪江町の花卉栽培拡大

**医療関連**

ふくしま医療機器開発支援センター

**航空宇宙**

(株)H相馬事業所

▲福島イノベーション・コースト構想 主要プロジェクト  
出典：公益財団法人 福島イノベーション・コースト構想推進機構

水産加工業をはじめ  
とした産業の回復が  
遅れている。

復興支援道路の開通により、  
釜石港の利用企業が拡大し、  
地域の物流に貢献。



▲釜石港利用企業数・コンテナ取扱量の推移  
出典：東北地方整備局HP

## 2. 災害対策と防災先進圏域としてのプレゼンスの向上

※戦略的目標との対応を分かりやすく表現するため震災復興と区別。  
【キーワード】

流域治水  
巨大災害(中間とりまとめ⑥より)  
ハード・ソフトの一体的な整備

災害の経験を活かした防災・減災の取組

【宮城県 角田市】  
○市道 駅前花島線に越水対策工事(止水壁)を設置し、尾袋川からの越水対策を実施することで左開地区への越水流入を防ぎ、避難経路を確保する対策を実施しています。

できるだけ氾濫を防ぐ・減らすための対策を実施。

市道 駅前花島線に越水対策工事(止水壁)を  
設置し、地域住民の安全・安心を確保する。

▲阿武隈川水系流域治水プロジェクト(宮城県角田市)  
出典：国土交通省

太平洋・日本海の2面をもつ  
東北圏の特徴を活かし、  
他圏域での地震発生時に備えて  
代替輸送を実施するための  
バックアップ体制の整備が課題である。

東北港湾の広域連携による災害対策

**三大湾の広域港湾BCP**

- 同一湾内に複数の港湾が立地し、水域を共有
- 同じ地震災害により同時被災する可能性が高い
- 湾内の関係機関の連携による航路啓閉・応急復旧に重点を置いた広域港湾BCP

**東北港湾の広域港湾BCPの特徴**

- 太平洋沿岸と日本海沿岸の広範囲にわたって港湾が点在し、両沿岸で大規模地震・津波が発生する可能性がある
- 各港における港湾機能継続の取り組みが基本
- しかし、大規模災害時には、各港が単独で輸送能力を確保することが困難となることも想定
- 太平洋沿岸と日本海沿岸の港湾は相互にバックアップが可能な地勢構造
- 復旧資機材の調達、代替輸送における広域連携による被災港湾の支援のための広域港湾BCP

▲東北港湾の広域港湾BCPの特徴  
出典：東北広域港湾防災対策協会「東北広域港湾機能継続計画」

## 3. 克雪・利雪・親雪の推進

- (1) 豪雪地帯における安全で快適な生活環境の整備
  - (2) 利雪・親雪の推進
- ※東北圏ならではの特徴であることから継承。  
スノーリゾート形成のための取組例



アフタースキーを楽しめる環境を整備。高機能な降雪機の導入により、外国人観光客の長期滞在を促進 営業期間を最大化・明確化  
出典：観光庁「国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業」(R3)

無電柱化の推進・交通環境の整備

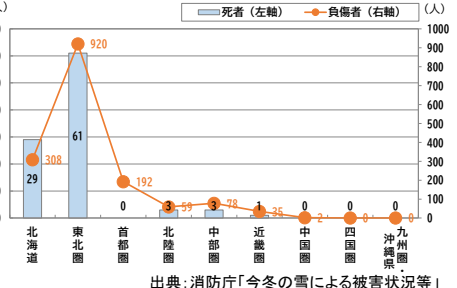
傾斜した電柱

堆雪幅整備前

堆雪幅整備後

▲雪害により傾斜した電柱(新潟県)  
出典：NIT技術ジャーナル

雪害による死傷者の地域分布 (R3年) (再掲)



出典：消防庁「今冬の雪による被害状況等」

雪を魅力的な地域資源として  
活用する取組例  
(山形県西川町「月山志津温泉雪旅籠の灯り」)



出典：山形県「山形県雪対策基本計画」(R2.3)

# 3. 東北圏発展の課題ー2

黒文字：現計画の課題内容  
 赤文字：変更提案  
 青文字：関連キーワード、変更の意図、方向性

## 4. 産業の活性化、国際競争力ある産業の振興

- (1) 競争力ある産業の振興
- (2) エネルギーの安定供給
- (3) 農林水産業の維持・強化
- (4) 物流拠点の整備と交通・情報通信ネットワークの構築



**【キーワード】**  
 次世代放射光、水素エネルギー、カーボンニュートラル（中間とりまとめ⑥より）、国際競争力（国土の長期展望・中間とりまとめ④より）、国際リニアコライダー誘致、超スマート社会、Society5.0、ビッグデータ、AI、IoT、5G、DX、シェアリングエコノミー

次世代放射光計画による新産業創造

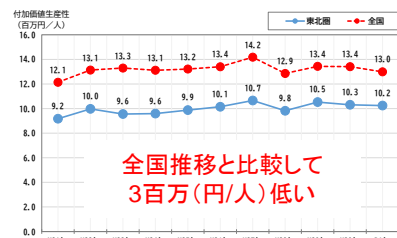
スーパーシティ仙台により、都市のトランスフォーメーションを先導、東北全域へ展開  
 東京一極集中に対する多核連携の拠点機能形成

出典：「仙台市×東北大学 スーパーシティ構想」

東北圏における先端産業拠点の集積状況

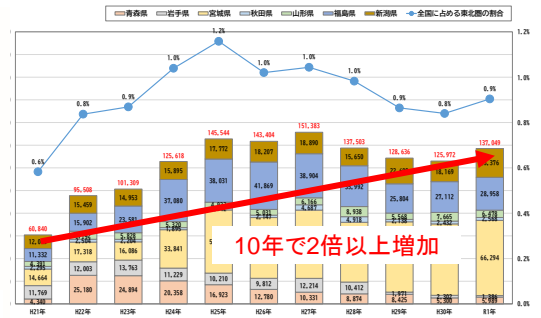


出典：「国土形成計画（広域地方計画）の推進に係る報告について（国土交通省）」を基に作成

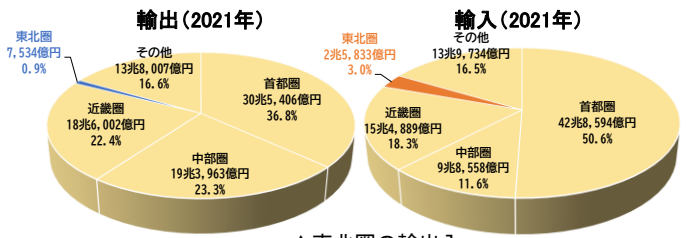


▲付加価値生産性の推移  
 出典：経済産業省「工業統計調査 地域別統計表」

東北圏の研究開発費



▲東北圏の研究開発費  
 出典：経済産業省「企業活動基本調査（再編加工）」

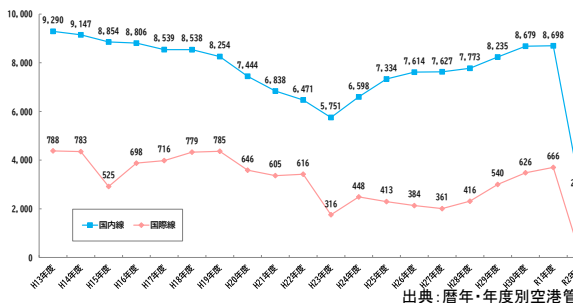
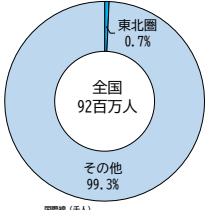


▲東北圏の輸出入  
 出典：神戸税関「全国開港別貿易額表」

## 5. 国際交流・連携の強化

- (1) 国際交流・連携のための基盤整備
  - (2) 戦略的、効率的な国際物流の実現
- ※戦略との対応を分かりやすく表現するため、この項目では観光に関する内容とし、国際物流は「4. 産業の活性化、国際競争力ある産業の振興」へ。  
 内容例) ポストコロナ時代の国際交流、インバウンドへの対応

国際線旅客数の全国比 (R1年度)



## 6. 循環型社会の構築、豊かな自然共生社会の実現

- (1) 地域主導による災害に強い再生可能エネルギーの導入と利用推進の取組
  - (2) 小型家電等各種リサイクルの推進
  - (3) 森林整備・保全の推進
  - (4) 生物多様性の保全・回復、自然環境の保全・再生
- 【キーワード】  
 SDGs、カーボンニュートラル（中間とりまとめ⑥より）、低炭素社会・脱炭素、気候変動、地域循環共生圏（環境省）、地方が牽引する脱炭素社会の実現（まち・ひと・しごと2021）、自然共生型社会、再生可能エネルギー、水素等次世代エネルギー、森林保全の取組

小名浜港のカーボンニュートラルポート形成イメージ



洋上風力発電のイメージ



出典：社会資本整備重点計画



出典：東北森林管理局「令和3年度 林野庁 東北森林管理局 重点取組事項」



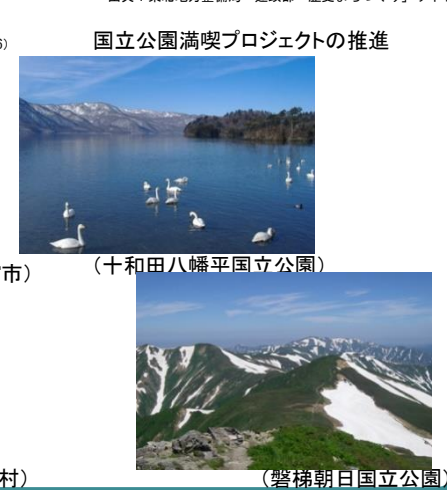
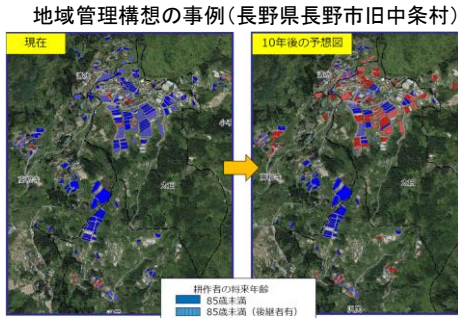
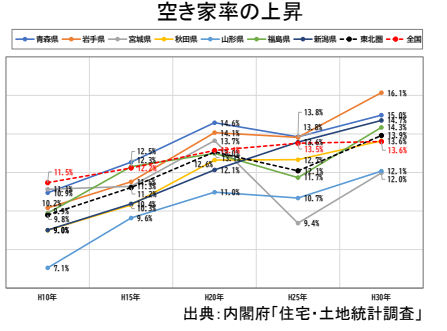
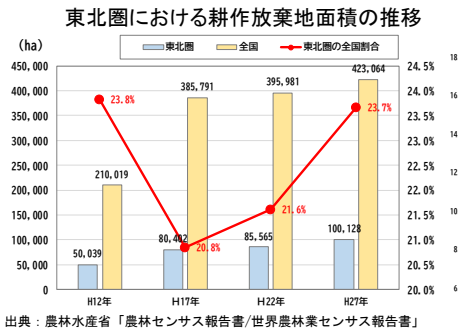
# 3. 東北圏発展の課題ー3

黒文字: 現計画の課題内容  
 赤文字: 変更提案  
 青文字: 関連キーワード、変更の意図、方向性

## 7. 美しい圏土や 歴史的文化的の保全と活用

- (1) 圏土の管理、自然資源の保全と活用
- (2) 歴史文化の保全・発信

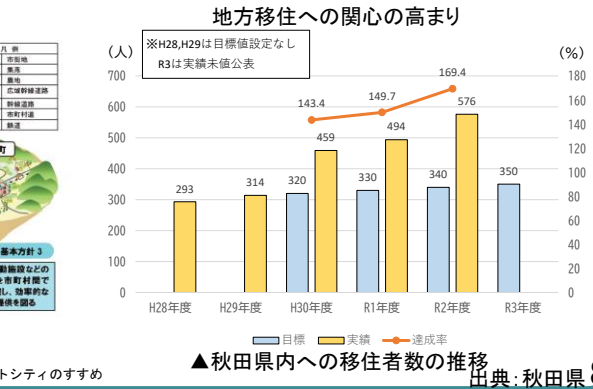
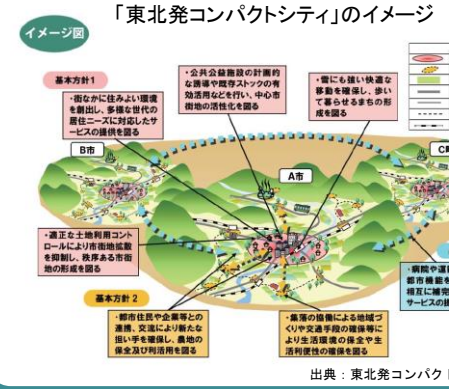
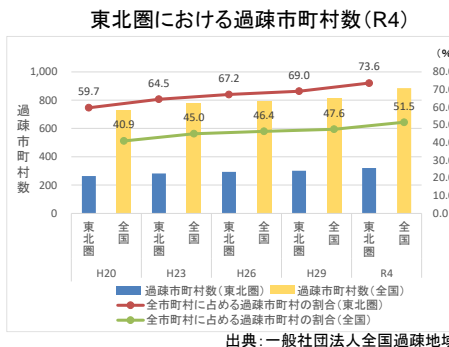
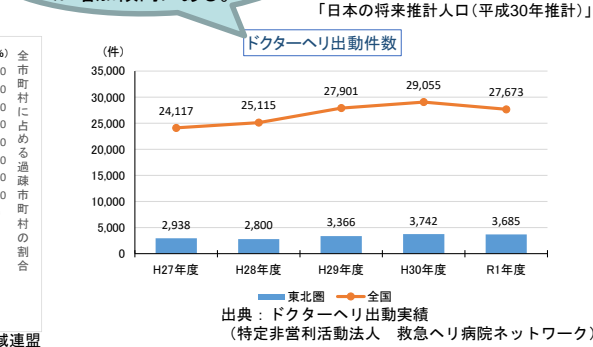
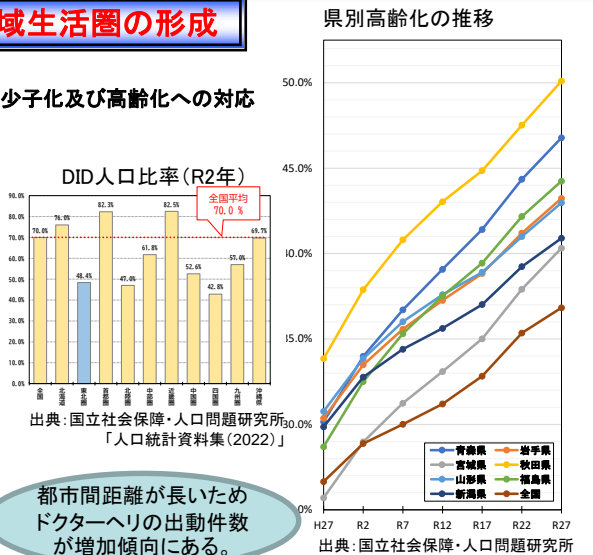
【キーワード】  
 森林荒廃、農地の減少、空き地・空き家  
 歴史まちづくり、国立公園満喫プロジェクト、  
 圏土の管理 (中間とりまとめ⑦より)



## 8. 人口減少社会に適応する地域生活圏の形成

- ※より危機感を高める表現に変更。
- (1) 農山漁村、離島・半島を中心とした人口減少・少子化及び高齢化への対応
- (2) 情報通信格差の解消
- (3) 中心市街地の活性化とネットワークの構築
- (4) 都市と農山漁村の連携・共生
- (5) 都市間距離の克服
- (6) 生活圏域内の快適なモビリティの確保
- (7) 地域医療の支援
- (8) 女性の社会参画

【キーワード】  
 消滅可能性都市、人口減少 少子化 高齢化、  
 DX (中間とりまとめ①より)、自動運転 (中  
 間とりまとめ⑤より)、二地域居住 (中間  
 とりまとめ③・東経連より)、ウォークブル、  
 「デジタル×リアル」(国土の長期展望)、  
 地方へのひとの流れの創出、人材支援、テレ  
 ワーク (まち・ひと・しごと2021)、コンパ  
 クトシティ、地域コミュニティ、地方分散型  
 社会、雇用のミスマッチ、ダブルケア、中山  
 間地域の交通サービス



# 3. 東北圏発展の課題－4

黒文字: 現計画の課題内容  
 赤文字: 変更提案  
 青文字: 関連キーワード、変更の意図、方向性

## 9. 若者の定着、人材育成、女性活躍

- (1) コミュニティ活性化のための絆の構築
- (2) 人材の育成と活用

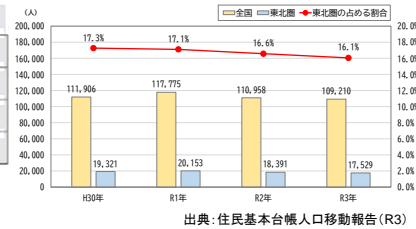
年齢性別	n	どちらか一方又は両方		どちらか又は両方とも無い		わからない
		有	無	有	無	
東北圏女性	(1158)	13.6	32.0	14.2	22.4	17.8
非東北圏女性	(1143)	13.1	34.1	15.0	23.1	14.7
東北圏男性	(1877)	12.0	30.5	15.4	24.5	17.5
非東北圏男性	(1104)	13.4	35.1	15.6	19.0	17.0

▲東北圏企業における5年間の女性活躍推進状況  
 「ここ5年間で女性活躍が進んでいると思うか」

出典: 公益財団法人東北活性化研究センター  
 「東北における女性活躍推進の実態と働く女性の意識調査(R3)」

【キーワード】  
 女性の活躍 (中間とりまとめ②より)  
 賃金の引き上げ  
 U・Iターン

20代女性の首都圏への転出(再掲)

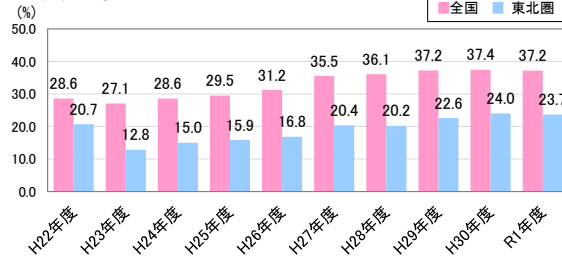


## 10. 公共投資の重点化と効率化、民間活力の導入

- (1) 財政制約と行政サービス
- (2) 公共投資の重点化・効率化
- (3) インフラの長寿命化対策

【キーワード】  
 人口減少による地方財政難  
 官民連携 (中間とりまとめ⑥より)  
 民間活力の導入  
 インフラの老朽化対策 歳出に占める税収の割合の推移

年齢別橋梁数割合

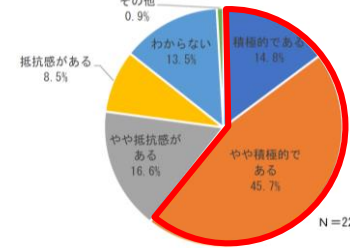


## 11. DXの推進

※国土形成計画の中間とりまとめや各県の計画でも重要課題として多く取り上げられていることから新規に項目を追加。

【キーワード】  
 DX、デジタル田園都市、超スマート社会  
 Society5.0、ビッグデータ、AI、IoT、5G

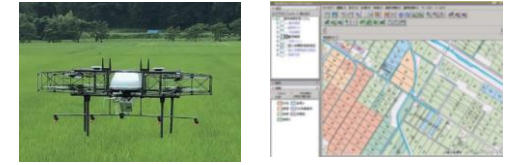
東北圏企業におけるデジタル化推進への社内の意識



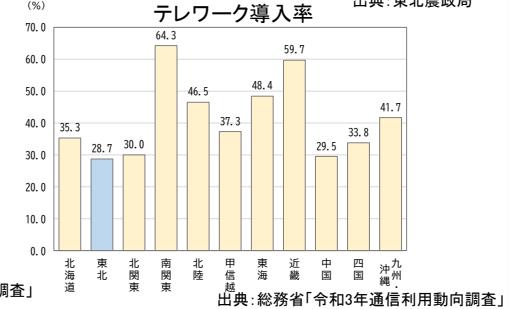
MaaSの取組例(福島県会津若松市)



スマート農業の取組例(岩手県北上市)



▲ドローンによる農薬散布 ▲営農・生産管理システム



▲仙台市×東北大学スーパーシティ構想  
 出典: スマートシティ官民連携プラットフォーム

東北圏の特徴とポテンシャル

東北圏発展の課題

東北圏を取り巻く潮流

『東北圏の将来像』

# 4. 東北圏の将来像・戦略的目標

## 東北圏の将来像(P)

<重点テーマ> デジタルとリアルが融合した「豊かな東北版地域生活圏」の形成 など

➤4つの基本方針

(復興・防災・減災)

震災の経験を活かし、強さとしなやかさを世界に発信する防災先進圏域の形成

(産業・国際連携)

エネルギー・食料の自給力と産業の競争力を通した日本全体を牽引する東北圏の形成

(自然・環境・暮らし)

グリーンな国土づくりに挑戦する東北圏の形成

(人材・共助)

誰もが自己実現でき地方の先導モデルとなる東北圏の形成

復興・再生の強い力を未来につなげる社会の実現

豊かな地域資源の活用と先端産業の挑戦による国際競争力の強化

美しい国土の保全と恵みある豊かな自然の継承と利活用

新しい暮らしを可能にし、雪との共生によるコンパクトな圏域の実現

➤6つの戦略的目標

交流・連携強化による世界とつながるネットワークの実現

自分らしくチャレンジできる自立的な地域運営の実現

より良い東北圏を実現するためのポイント

- 新しい技術と震災の経験からクリエイティブな東北圏の未来を切り拓く
- 原子力災害を経験した東北圏だからこそカーボンニュートラルを先導する
- エネルギー・食料供給ポテンシャルを活かして自立した圏域をめざす
- 若者・女性の挑戦を支え、多様な生き方を実現できる圏域をめざす

## 東北圏の広大な圏土と豊かな自然

○ 豊富な森林、水資源 ○ 歴史ある農業地帯 ○ 都市の分散 ○ 優れた人材、ものづくり技術 ○ 四季折々の姿、冬の魅力 ○ 伝統・文化

# 次期東北圏広域地方計画 骨子(案)

---

[ 着色表示 凡例 ]

青 字 : 全国計画のキーワード等

赤下線 : 懇談会委員の発言

# 第1章 計画の目的

## 【計画の目的】

資料1 P1

- ・国土形成計画法に基づく広域地方計画(以下「本計画」という。)は、平成28年3月に国土交通大臣が決定した計画であり、全国計画の基本方針に基づき、東北圏の特性を踏まえながら特色ある地域戦略を描くため、経済団体、地方公共団体、国の地方支分部局が協議を行った上で策定した。
- ・令和3年6月にとりまとめられた「国土の長期展望」や国土審議会計画部会において新たな国土形成計画が議論されており、これを受けて東北圏においても、各種関連計画、人口減少の深刻化や新型コロナウイルス感染拡大を始めとする社会情勢の変化等、顕在化している新たな課題等への対応が求められている。
- ・「新たな国土形成計画」が令和5年夏頃に策定予定であることから、これを受けて東北圏においても、諸課題に対応すべく計画を見直すこととした。

## 【対象区域】

資料1 P1

- ・本計画の対象区域である「東北圏」とは、国土形成計画法施行令に基づき、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県及び新潟県の区域を一体とした区域をいう。

## 【計画期間】

資料1 P1

- ・2050年さらにその先の長期を見据えつつ、策定から今後概ね10年間とする。

# 第2章 東北圏を取り巻く状況と地域特性

## 【東北圏が歩んできた歴史】

資料1 P1

・縄文時代から東日本大震災を経た現在までの東北圏の歩み、「国土の長期展望」の最終とりまとめ、「国土形成計画」の改定、コロナ禍等の動向について取りまとめる。

## 【東北圏の特徴と魅力】

資料1 P1~2

### 1. 広大な圏土と豊かな自然環境

・東北圏の面積は約79,500km<sup>2</sup>と日本全土の約2割にあたる広大な圏土を擁し、そのうち森林が約7割を占めており自然環境が豊かで美しい農村風景等が多く残る。

### 2. 広範囲に都市が分散する圏土構造

・東北圏の圏域は、南北に連なる山脈や盆地等が地域を分断し、都市間距離が長く、低密度に拡散した人口分布となっており、過疎市町村数が増加傾向にあるなど、圏土の存続が懸念されている。

### 3. 気象、災害等の自然の脅威

・平成23年3月の東日本大震災後も、令和3・4年と連続して福島県沖を震源とする大きな地震に見舞われたほか、令和元年東日本台風等の豪雨災害や、雪害など、幾度となく自然の脅威にさらされてきた。

### 4. 地域資源のポテンシャル

・東北圏は米の生産額は全国シェア約34%を誇っており、食料自給率が全国平均を大きく上回り安定した食料供給に寄与している。  
・広大な圏土と豊かな自然を有しており、再生可能エネルギーのポテンシャルも高い。

### 5. 先端産業拠点の整備進展

・東北圏は医療機器・自動車関連産業に加え、水素やロボット関連産業集積が加速しているほか、次世代放射光施設(ナノテラス)などの整備進展や、福島国際研究教育機構(F-REI)立地が決定、国際リニアコライダー(ILC)の誘致活動が積極的に展開されるなど、科学技術プロジェクトが各地で進んでいる。

### 6. 特徴ある伝統、文化、冬の魅力

・東北圏には、青森ねぶたを始めとする日本を代表する夏祭り、民謡、津軽三味線などの伝統や文化が多くあり、横手かまくらまつりといった冬の魅力も多い。

# 第2章 東北圏を取り巻く状況と地域特性

## 【東北圏を取り巻く潮流】

資料1 P2～3

### 1. 東日本大震災からの復興・再生

- ・地震・津波被災地域では、復興の仕上げの段階にある。原子力災害被災地域では、特定復興再生拠点区域において帰還環境整備に向けて除染・インフラ整備が集中的に行われるなどの動きがあるものの、未だ帰還困難区域も残っており、引き続き国が前面に立って、中長期的に対応することが求められている。

### 2. 頻発・激甚化する自然災害

- ・震度5以上の地震のほか、台風や集中豪雨による洪水被害や土砂災害、雪害等が多発し、火山の活動も活発化しており、今後も自然災害の発生が懸念される。

### 3. 人口減少・高齢化の深刻化

- ・東北圏の人口は令和12年には1,000万人を下回る見込みであり、全国の傾向より速いスピードで高齢化が進んでいくことが懸念されている。

### 4. 若年層・女性の転出増

- ・東北圏では若年層が進学や就職を契機として首都圏等へ流出するなど、ほとんどの県で転出超過している。全国から首都圏への20代女性転出者のうち東北圏から首都圏への転出者は全体の2割弱を占め、約2万人前後が転出している。

### 5. デジタルトランスフォーメーション（DX）の遅れと成長の停滞

- ・全国傾向と同様に経済成長の低迷が続いている。
- ・生産性向上のためにもDXが重要であるが、東北圏企業のデジタル活用は遅れている。

### 6. 地球規模の環境問題

- ・地球規模の課題である気候変動問題の解決に向けて、世界的にカーボンニュートラルの取組推進が求められている。

### 7. 地域・社会の魅力、文化への意識の高まり

- ・価値観の多様化、余暇時間の増大等に加え、コロナ禍を通して新しい働き方が浸透しつつあることで、二地域居住や地方移住への関心の高まりが出始めている。

### 8. 新型コロナウイルス感染症による変化

- ・増加傾向にあった東北圏の訪日外国人の観光入込客数は、コロナ禍以前の10%程度まで落ち込み、東北圏の観光産業に大きな打撃を与えた。
- ・新たな地方・田園回帰の動きがみられる他、地方での暮らしの魅力が注目されている。

# 第2章 東北圏を取り巻く状況と地域特性

## 【東北圏発展の課題】

資料1 P3

### 1. 震災復興の先の自立的発展

- ・地震・津波被災地域及び原子力災害被災地域において、今後も被災者支援等の取組が必要であるほか、教訓や課題を今後起こり得る広域災害の備えとして活かし、被災経験や教訓の伝承・発信に取り組んでいくことが必要である。
- ・東日本大震災で大きな打撃を受けた東北圏を震災前の状態に回復させるだけでなく、次のステップとして将来の自立的発展を見据えた産業振興が期待されている。

資料1 P3

### 2. 災害対策と防災先進圏域としてのプレゼンスの向上

- ・安全・安心を脅かすリスクの高まりを受け、東日本大震災等を含む被災経験をもとに、巨大災害に備えた減災・防災対策を強化するとともに、国土強靱化のモデルとなる防災先進圏域としてのプレゼンスの向上を図っていく必要がある。

資料1 P3

### 3. 克雪・利雪・親雪の推進

- ・圏土の約85%が豪雪地帯である東北圏では、降雪・積雪等の厳しい気象条件が日常生活や経済活動の支障となっているため雪に強い地域づくりを進める一方、雪を貴重な地域資源ととらえ、雪と共存・活用する取組を積極的に推進することが必要である。

資料1 P3

### 4. 産業の活性化、国際競争力ある産業の振興

- ・グローバル化が進行し、国内外とつながる物流の円滑化や安定かつ安価な資源調達が求められる一方、東北圏では、地域産業の衰退が懸念されており、「稼ぐ力」を高める必要がある。また、産業の集積と高度化、高付加価値化、デジタル化による産業の振興、科学技術を中心としたイノベーションの創出、働きがいのある雇用の確保が必要である。
- ・さらに新型コロナウイルス感染症や世界情勢の緊迫化により、エネルギー・食料需給を巡るリスクが顕在化しており、エネルギー・食料の安定供給の確保が重要である。

資料1 P3

### 5. 国際交流・連携の強化

- ・国内外をターゲットとして、ポストコロナの新しい生活様式に合わせた交流人口・関係人口の回復・拡大・深化が喫緊の課題。さらなる国際交流の活発化をめざして、国際航空路線やクルーズ船の誘致による交流人口の拡大に向けた対応等が必要である。



# 第2章 東北圏を取り巻く状況と地域特性

## 【東北圏発展の課題】

資料1 P4

### 6. 循環型社会の構築、豊かな自然共生社会の実現

- ・パリ協定やSDGsの採択等の国際社会の動向を受け、持続可能な東北圏を形成するためには、豊富な自然と共生し、脱炭素社会、循環型社会を構築することが必要である。

資料1 P4

### 7. 美しい圏土や歴史文化の保全と活用

- ・令和3年には北海道・北東北の縄文遺跡群が世界遺産登録され、佐渡島の金山が登録に向け推薦されている。また、下北や栗駒山麓など、東北圏で11箇所のジオパークが認定されており、地域の自然と人の暮らしの関わりを学ぶ地域づくりが進められている。この美しい圏土を適切に保全・活用し、後世に継承することが必要である。

資料1 P4

### 8. 人口減少社会に適応する地域生活圏の形成

- ・生産年齢人口減少率は全国平均を大きく上回る見込みであり、中心市街地の空洞化や中山間・沿岸地域での過疎化の進行、集落の消滅危機等が一層深刻化するおそれがある。
- ・一方、コロナ禍を経た暮らし方・働き方の変化により、新たな地方・田園回帰の動きが高まっており、関係人口の拡大も期待される。
- ・デジタルとリアルの融合により、利便性の高い生活圏を形成することが重要である。

資料1 P4

### 9. 若者の定着、人材育成、女性活躍

- ・人口減少の要因の一つとされる若年女性の転出超過が顕著であり、圏域内の賑わいの喪失や地域コミュニティの弱体化、更なる活力低下を招くことが懸念され、積極的に受け入れるための環境整備、多様な働き方や生活スタイルに対応できる地域づくりが必要である。

資料1 P4

### 10. 公共投資の重点化と効率化、民間活力の導入

- ・今後、少子・高齢化の進行により、医療・福祉・社会保障費の増大が予想されることから、これまで以上の公共投資の重点化・効率化を図る必要がある。
- ・さらに、民の力を最大限発揮し、官民連携による課題解決に当たることが必要である。

資料1 P4

### 11. DXの推進

- ・東北圏は他の地域と比較し、デジタルに対応した環境が整っておらず、その遅れが懸念される。
- ・「デジタル田園都市国家構想」で示された通り、DXの活用は特に地方都市における課題解決に有効な手段であることから、デジタルの徹底活用によるリアルの地域空間の質的向上が求められる。

# 第3章 これから10年で東北圏が目指す姿

## 東北圏の将来像

資料1 P5

### 東北圏の将来像(P)

第2章の東北圏を取り巻く状況や地域特性を踏まえ、直面する課題やリスク等に背くことなく、東北圏が有する美しい風景・自然、多彩な伝統・文化を基本となる資産・資本と捉え、次の4つの「目指すべき地域づくりの方向性」を見据え、守り・伝え・活かし・交流し・発展するという回転軸のもと、未来に希望の持てる『東北圏の将来像』を示すものとする。

また、将来像の実現にあたっては、次期全国計画において示されている国土づくりの戦略的視点である、「民の力を最大限発揮する官民連携」「デジタルの徹底活用」「生活者・利用者の利便の最適化」「縦割りの打破（分野の垣根を越えた横串の発想）」を取り入れ、取り組んでいく必要がある。

特に、人口減少・高齢化が深刻化している東北圏においては、東北版となる「デジタルとリアルが融合した豊かな地域生活圏の形成」などの取組を進めることが重要である。

- ・東日本大震災の経験や教訓を活かすまちづくり、人づくりを継続していくとともに、新たな技術を活用したクリエイティブな圏域を目指す。
- ・原子力災害を経験した東北圏だからこそ脱炭素社会の実現のため、カーボンニュートラルやGX(グリーントランスフォーメーション)を先導する圏域を目指す。
- ・日本有数のエネルギーポテンシャルエリアである特性を活かした新たなエネルギー産出と循環により日本全体を牽引するとともに、エネルギー・食料の地産地消による自立した豊かな圏域を目指す。
- ・デジタルの活用やチャレンジを受け入れる寛容さなどにより多様な暮らし方を可能にし、若者や女性を含む誰もが自分らしく活躍できる魅力的な圏域を目指す。

### 1. 震災の経験を活かし、強さとしなやかさを世界に発信する防災先進圏域の形成

- ・東日本大震災の復興を成し遂げ、災害に強いまちや新しい産業を創造するべく、震災の経験を再生の力に変えていながら、伝承施設等を活用するなど、国内外の防災力強化に貢献するために世界をリードする。

#### (1) 復興・再生の強い力を未来につなげる社会の実現

- ・東日本大震災及び原子力災害によって大きな被害を受けた地域の復興や再生、新たな産業の創出を図り、安心して暮らし、働き続けることができる生活環境づくりを成し遂げる。
- ・巨大災害への備えと首都直下型地震等の大規模災害時のバックアップ機能の強化のために、災害時のリダンダンシー(代替性)の確保に向けて、且本海・太平洋の両面及び津軽海峡の利点・特性を活かした広域交通ネットワークの強化や津波防御施設の整備といったハード整備のみならず、災害時の広域連携、支援体制の構築及び事前防災行動計画(マイタイムライン)の普及啓発など、ソフト面からの取組も併せて、国内外に誇れる防災先進圏域の実現を目指す。
- ・被災地の経験の記録・保存・共有を図るとともに、復興祈念公園や震災伝承施設等により、次世代に災害を語り継ぎ、教訓を伝承するなどの情報発信に取り組む。
- ・東日本大震災等の被災経験を活かし、激甚化・頻発化する災害に備え東北圏全体として**防災・減災・国土強靱化**対策に取り組むとともに、流域全体で水害から守る「流域治水」を進める。
- ・インフラ老朽化対策として、持続可能なインフラメンテナンスの実現に向け、「予防保全」への本格転換、新技術・官民連携手法の普及促進等に取り組む。

# 第3章 これから10年で東北圏が目指す姿

## 将来像実現のための方針及び目標

資料1 P6

### 2. グリーンな国土づくりに挑戦する東北圏の形成

・豊かな自然環境を保全するだけでなく、東北圏の活性化に向け利活用するとともに、地域における拠点整備と拠点間の連結強化により暮らしやすい圏域をつくり上げる。

#### (1) 美しい国土の保全と恵みある豊かな自然の継承と利活用

- ・豊かな自然環境を保全するとともに、地域の自然資本として持続可能な形で活用し、人と自然が共生した国土利用・管理により、地球に優しく生命力あふれる循環型の圏域をつくり上げる。
- ・東北圏の美しい原風景を保全・継承するため、多様な主体の参画の下、地域の景観・自然・歴史・文化等の地域資源や個性を活かした地域づくりの取組を推進するとともに、それらを活かした観光や産業の振興等による経済的にも持続可能な地域の活性化に結びつけていく。
- ・東北圏の広大で豊かな陸域・海域が育む水循環・水環境の保全・再生・利用を図るとともに、適切な国土の保全・管理を推進する。

#### (2) 新しい暮らしを可能にし、雪との共生によるコンパクトな圏域の実現

- ・冬期間の安全で快適な生活や地域間交流・連携を支える雪対策を推進するとともに、雪を価値ある資源ととらえ、観光資源としての活用等、雪を活かす取組を促進し、魅力的な地域づくりを推進する。
- ・人口減少が著しい東北圏においては、地域特性を踏まえた空き地・空き家の利活用など地域空間のマネジメントを行い、都市機能のコンパクト化と農山漁村における「小さな拠点」の整備を進め、都市と農山漁村が有機的に結ばれ共生できるよう、持続可能で利便性の高い、シームレスな交通ネットワークの形成を図る。
- ・近隣市町村間で都市機能を相互補完・分担しあい、ドローンや自動運転等新たな移動や物流技術を活用することにより暮らしの質を向上し、持続可能な社会の構築を目指す。
- ・ICT(情報通信技術)を活用した医療・介護・福祉サービス、教育等を充実させることによって、多世代が豊かな暮らしができる圏域をつくり上げる。

# 第3章 これから10年で東北圏が目指す姿

## 将来像実現のための方針及び目標

資料1 P6~7

### 3. エネルギー・食料の自給力と産業の競争力を通じた日本全体を牽引する東北圏の形成

・東北圏のエネルギー・食料供給のポテンシャルを最大限活用し、地域全体の活力を引き出しながら、圏域内外のネットワーク強化により、暮らしやすさや産業の競争力を高め、日本全体をリードする。

#### (1) 豊かな地域資源の活用と先端産業の挑戦による国際競争力の強化

- ・産学官民の連携や産業のイノベーションを通じ、地域資源を活かした産業の集積や振興、スタートアップ支援を推進するほか、国際先端科学技術産業の集積等により、国際競争力を持つ産業群の形成及び持続可能な産業の構造転換を目指す。
- ・洋上風力発電や地域に密着した再生可能エネルギーなどの導入拡大を図りエネルギーの安定供給とカーボンニュートラルの両立に挑戦するとともに、関連産業の集積や新産業の創出を図り、東北圏の特徴を活かした強固な自立分散型エネルギー圏域の形成を目指す。
- ・東北圏が有する豊かな地域資源を生かし、ロボット、AI、IoTなど先端技術の活用により稼げる魅力的な農林水産業に発展させるとともに、地域単位での農業経営等の取組を進め、安定的な食料自給を確保する。
- ・東北圏の文化や豊かな自然の再発見と利活用により地域資源の付加価値を高め、多様な主体の連携により新しい需要に対応した広域観光を積極的に提供し、観光産業の活性化と交流人口の拡大を図る。

#### (2) 交流・連携強化による世界とつながるネットワークの実現

- ・圏域内の港湾及び空港の整備・活用によるグローバル・ゲートウェイの機能強化とそれを支える道路及び鉄道の整備を図るとともに、ICT（情報通信技術）の活用等による物流の効率化を推進し、東北圏が国際交流・連携活動の拠点となる日本海・太平洋2面活用型国土の形成を促進する。
- ・圏域内外の主要都市・拠点施設等を短時間で結び、地域間の広域連携・産業経済・圏民生活等を支援する高速交通ネットワークの効率的・効果的な構築や強化などにより良質な高速交通網の形成を促進する。
- ・高速交通網と一体となって機能し、生活や観光交流等を支えるシームレスな交通ネットワークの形成を図るとともに、持続可能で多様な交通手段の導入を促進する。

### 4. 誰もが自己実現でき地方の先導モデルとなる東北圏の形成

・圏民の誰もが自分らしく活躍し、多様な生き方を実現する圏域をつくり上げるとともに、自立的な地域運営に向け、将来を担う人材の育成・活用を進める。

#### (1) 自分らしくチャレンジできる自立的な地域運営の実現

- ・地域の将来を担う人材の確保・学び直し（リスクリング）等による育成、二地域居住・地方移住及びリモートワークの推進や圏域内外との交流による関係人口の拡大及び多様な人材の活用を図るとともに、それを積極的に受け入れるための環境整備を推進する。
- ・東北圏における持続的な地域運営に向けて、多様な主体の参画・連携・協働による官学民などの中間支援組織や地域運営組織を形成する。
- ・東北圏の有する豊かな自然や風土や文化を活かして子どもの学ぶ力を育み、地域コミュニティを形成しながら、伝統と歴史を紡いだ地域社会をつくり上げる。
- ・圏民誰もが安心して暮らし、自分らしく活躍できるよう、多様な働き方や生活スタイルに対応できる地域づくりを促進する。